

2019 年度冬季における沖曳網でのホンモロコ漁獲物調査

磯田能年・米田一紀・大植伸之

1. 目的

ホンモロコの資源管理を推進していくための基礎資料とするため、産卵直前の冬季に、主要な漁法である沖曳網での漁獲物について体長等を調査し、過年度の結果と比較した。

2. 方法

調査は、2020 年 1 月 14 日～2 月 19 日に、琵琶湖北湖の沖合で沖曳網により漁獲されたホンモロコ 6,698 尾を対象に実施した。標本は、冷凍保存とし、解凍後に体長等を計測し、その後、開腹して、生殖腺を肉眼で観察することにより性の判別を行った。年齢査定は、鱗の輪紋の乱れを観察することにより行った。

3. 結果

年齢構成について、0 歳魚が 94.57%、1 歳魚が 4.18%、2 歳魚が 1.21%、3 歳魚が 0.04% であった。過年度の結果も含めて図 1 に示した。2002 年、2018 年以外の年では 0 歳魚が全体の 90%以上を占めており、本年度も同様な傾向であった。

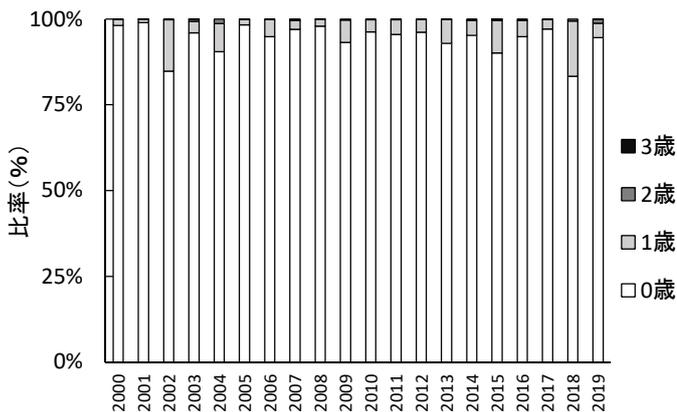


図 1 冬季に沖曳網で漁獲されたホンモロコの年齢構成

性比について、雌の割合は、0 歳魚では 49.2%、1 歳魚では 69.3% であった。過年度

の結果も含めて図 2 に示した。どの年度においても、0 歳魚では雌雄比がほぼ 1:1 であり、1 歳以上魚では雌の割合が高いという傾向がみられた。

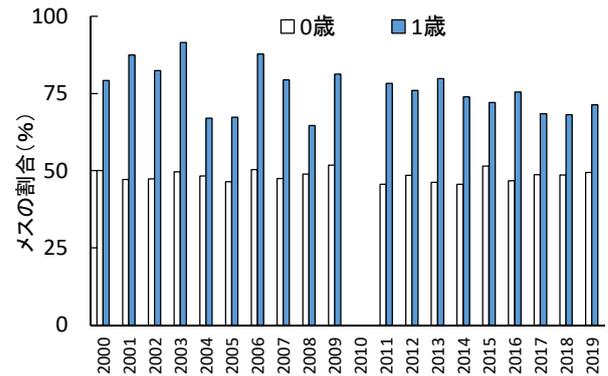


図 2 冬季に沖曳網で漁獲されたホンモロコの性比

体長について、0 歳魚では 74.38 ± 8.75 (平均±標準偏差)mm、1 歳魚では 96.59 ± 7.62 mm、2 歳魚では 107.55 ± 5.49 mm であった。0 歳魚について過年度の結果も含めて図 3 に示した。ほとんどの年度で体長約 80mm であったが、2012 年、2017 年および 2019 年は小型であった。

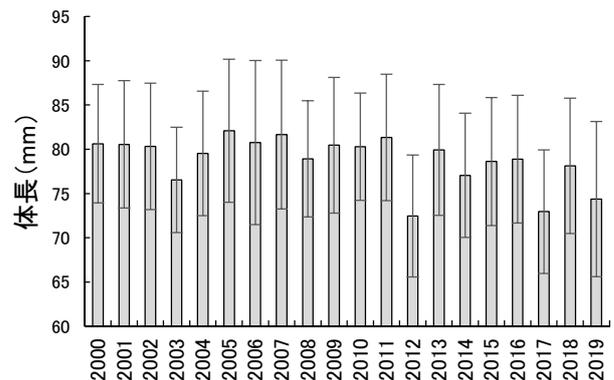


図 3 冬季に沖曳網で漁獲されたホンモロコ 0歳魚の体長

本報告は、滋賀県資源管理協議会からの調査委託事業の中で行われた成果の一部である。